秋田公立美術大学
AKITA UNIVERSITY OF ART

2023年度
教職支援室だより

秋田公立美術大学
美術教育センター
教職支援室ニュース　第２号
令和５年８月１０日発行
編集：齋藤・山脇・渡部・加賀谷・嶋崎

秋美の教職課程　10年の節目にあたって

秋田公立美術大学は平成25年度の開学から10年の時が過ぎ、11年目の今年度は、その節目を祝う様々な記念イベントが開催されています。中でも７月７日（金）あきた芸術劇場ミルハスにおいて盛大に開催された「開学10周年記念講演・式典」は、改めて本学の存在意義を県内外に広く示す機会になったのではないでしょうか。

さて、秋美の教職課程も大学の開学と同時に設置されましたので、同じように10年の節目を刻むことになります。初年度の教職課程専任教員はたったの３名で、助手もいなかったようですので、具体的なカリキュラムの編成や授業づくり等、そのご苦労はいかばかりであったかと推察されます。

ここからは、秋美の教職課程10年をまとめた資料を紹介します。これまでの10年をふり返り、また教職課程のさらなる充実・発展に向けて努力していきたいものです。

【教職課程10年の主な出来事】

最後の３年間は、新型コロナ感染症との闘いでもありましたが、開学以降、学びの環境が徐々に整備され、秋美の教職課程が着実に形となってきた10年と言えるのではないでしょうか。

年度	主な出来事
H25年度	○開学と同時に教職課程開設 ・入学者の半数以上、３年次編入生１名、教職課程専任教員３名でスタート
H26年度	○教育実習（４年次実施）までの関連科目が現在に近い形に整備される （ただし、集中講義的な実施）
H27年度	○教職課程支援のために特任教授1名が配置される
H28年度	○教職課程の履修生が全学年そろう ○指導充実のため、美術教育センター内に、特任教授３人の教職支援室が設置される
H29年度	○教職支援室が特任教授５人体制に拡充される ○卒業生（１期生）から初の中学校教員が誕生する
H30年度	○教職課程の再課程認定の申請を行う
R元年度	○文部科学省より再課程認定を受け、３年次で教育実習を行うカリキュラムに大幅変更となる
R２年度 ～ R４年度	○新型コロナ感染症の感染拡大により、教育実習の訪問指導の中止のほか、授業実施にも様々な制限が余儀なくされた

【教員免許の取得状況】

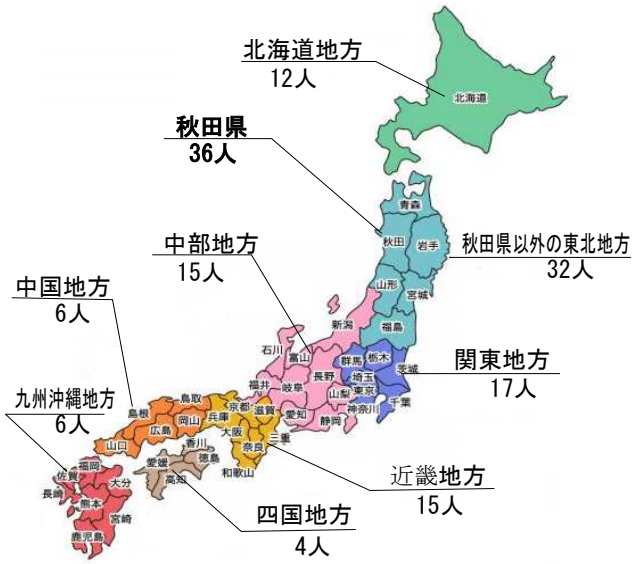
右表は開学から10年間の教員免許取得者数と、免許別の取得件数を示した表です。開学以来143名が教員免許を取得して本学を巣立ったことになります。また、免許別の取得状況について言えば、中学校（美術）の免許を取得すると、高等学校（美術）も自動的に取得できるため、この２つの免許を同時に取得している学生が最も多くなっています。また、高等学校（工芸）の免許については、単独ではなく、中・高（美術）と合わせて３つの免許を同時に取得している学生が多いのが実情です。

教員免許取得者数	
平成25年度	
平成26年度	
平成27年度	2 人
平成28年度	21 人
平成29年度	16 人
平成30年度	17 人
令和１年度	14 人
令和２年度	25 人
令和３年度	29 人
令和４年度	19 人
計	143 人

免許別件数	
中 学 校一種(美術)	115
高等学校一種(美術)	141
高等学校一種(工芸)	49
計	305

【教員免許取得者の出身地】

東北の地方都市にある単科大学でありながら、「東北・北海道で唯一の公立の美大」で、しかも教職課程も有する大学という魅力からか、秋美で教員免許を取得した卒業生の出身地は、東北・北海道はもとより、全国各地に広がっています。



教育実習（前半）を終えて

５月下旬から７月上旬にかけて、本年度前半の教育実習が行われました。これまでの学びを生かしつつ、秋美生らしさを発揮して、それぞれに成果をあげています。

アーツ＆ルーツ専攻

３年　佐　藤　祐　月 さん

（担当：渡　部）

◇　実習の概要

１　実 習 校　北海道釧路市立青陵中学校
２　実習期間　６月12日（月）～30日（金）３週間
３　配属学級　１年４組

◇　研究授業の概要

題材名は「かくせ！カメレオン」。

普段見慣れている校舎内から気になる場所を選び、カメレオンを模した紙を使って選択した情景の一部分の色彩や質感を再現することを目指しました。具体的には、柱や壁、ポスター、火災報知器など、自分が選択した場所のイメージから色彩や構図を考え、着彩のための混色の方法を検討するといったわくわくする授業展開でした。生徒たちが自分で考え、判断・決定し、活動する過程が大切にされており、どの生徒も意欲的に学習する姿がたいへん印象的でした。

生徒の実態から、事前に予想されるつまづきとその支援の手立てが綿密に想定されており、一人一人の進捗状況に応じた支援が適切に行われていたことにも感心させられました。

教科担当の先生と二人三脚で指導案を検討するとともに、実習を通して生徒たちとのコミュニケーションを深め、それを生かして個に応じた指導の充実に配慮した成果がよく表れていました。

◇　実習の成果

実習校の先生方からは、「実習生とは思えないほど落ち着いており、授業づくりに積極的に取り組もうとする姿勢が評価できる」「生徒との絆がしっかりできている。（研究授業の）前時が保健体育だったが、祐月先生のために、生徒は全速力で教室に戻ってきた」「授業の終盤、教室のあちらこちらから『よし！』という声が聞こえてきた。生徒が満足感や達成感を味わっていた証左である」など、高く評価していただきました。

素晴らしい先生方と出会い、目の前の子どもたちのためにと真摯に取り組んできたことで、有意義な実習となりました。

コミュニケーションデザイン専攻

３年　堀　井　　花 さん

（担当：加賀谷）

◇　実習の概要

１　実 習 校　栃木県那須烏山市立烏山中学校
２　実習期間　６月５日（月）～23日（金）３週間
３　配属学級　１年３組

◇　研究授業の概要

「タイトルロゴで伝わるイメージ」と題するオリジナル題材で、様々なロゴデザインをもとに、それぞれから受け取った印象が、どんな形や色彩から生じているのかを考え、自分の表現に生かそうとすることをねらいとする授業でした。

実習期間中に実習校の１年生が学習を進めていた「絵文字の制作」に生きるよう、形や色彩が与える効果について実感させることに結びついており、今後の学習にスムーズにつながる１時間となっていました。

自作のワークシートやプレゼン資料、タイトルロゴのカードなどが工夫されており、活動時間を十分に保障しつつメリハリのきいた授業展開と併せて、生徒たちの意欲的な学習に結びついている様子に大変感心させられました。

◇　実習の成果

教科担当の先生をはじめ授業を参観された先生方からは、「生徒に向けての発話、表情、仕草、立ち位置などが、ベテラン、中堅の域にあると感じられる」「ともすれば流してしまいがちな学習規律の大切さが意識できており、活動に集中する場面、指示や説明に耳を傾ける場面などの切り替えができている」「大学での学びを生かした教材研究のオリジナリティや豊かさ、自分自身を冷静に振り返り、改善点を修正できる柔軟な思考など、教員としての適性にあふれている」といった評価を頂戴しました。

先生方も生徒たちも本人を温かく迎え入れてくださったことに加え、実習前から学習指導案に関するご指導をいただき、実習の中で授業展開の改善やブラッシュアップができたことなどにより、充実した実習となった様子がうかがえました。

ものづくりデザイン専攻

３年　織　笠　由　瑚 さん

（担当：齋　藤）

◇　実習の概要

１　実 習 校　岩手県立宮古高等学校
２　実習期間　６月19日（月）～７月７日（金）３週間
３　配属学級　１年Ｅ組

◇　研究授業の概要

研究授業は６月29日(木)の２・３校時、１年Ｃ・Ｄ組を対象に行われました。岩手県のお土産の定番であり、生徒たちにとっても馴染みの深いお菓子「かもめの玉子」を取り上げて設定した題材「思わず手に取りたくなるかもめの玉子のパッケージデザインを考えよう！」は、まさに同県出身でプロダクトデザインにも関心が高い実習生ならではの題材でした。しかも「絵柄や色などの平面的なデザインではなく、立体的形状にこだわりたい」という実習生の強い思いを具現化する授業でもありました。

研究授業は、全３時間の内の１・２時間目を提示するものでしたが、１時間目の導入では、題材の目標と３時間の授業の見通しについて確認した後、「パッケージ」に欠かせない要素についての説明がありました。その後、かもめの玉子の実物を一個ずつ全員に配り、じっくりとアイデアスケッチに取り組ませました。

２時間目は、厚めの方眼紙を使って、自分のアイデアスケッチを立体にしていく製作活動でした。どの生徒たちも目の前のかもめの玉子に向き合いながら、オリジナルのパッケージ作りに夢中になって取り組んでいました。

◇　実習の成果

「かもめの玉子」という、身近で地域が誇る素材を採り上げてデザインの授業を構築したこと、また、生徒全員に１個ずつかもめの玉子を配って、実物を手にしながらパッケージのデザインを考えさせことは、見事な構想力でした。２時間を通して生徒たちに笑顔があふれ、制作活動に夢中に取り組んでいる生徒たちの姿があったことは、授業の成功を何よりも如実に物語るものでした。実習生自身も楽しさを感じながら授業ができたのではないかと思います。

配属学級の先生から「生徒によく話しかけられ、生徒と関わろうとする姿勢が良く伝わってきた」という言葉があり、授業以外でも充実した教育実習であったことがよく伝わってきました。

コミュニケーションデザイン専攻

３年　郷　六　沙　羅 さん

（担当：嶋　崎）

◇　実習の概要

１　実 習 校　岩手県立不来方高等学校
２　実習期間　６月19日（月）～７月７日（金）３週間
３　配属学級　１年１組

◇　研究授業の概要

研究授業は７月４日（火）の２・３校時（２時間続き）、１年６組を対象に「自画像のデッサン」を題材として行われました。この授業を通して実習生が高校生に最も伝えたかったことは「モチーフを観察することの大切さ」でした。そのため、１時間目（２校時）の導入にあたって、普段見慣れているはずの信号機の並び順や、コンビニエンスストアのロゴマークに関するクイズを出題したり、毎日鏡で見ているはずの自分の目の形を描かせたりする活動を通して、人の感覚の曖昧さを実感させるとともに、「よく観察し、正確に描く」ことがデッサンにとっていかに大切であるかを説いていました。

その後、生徒一人一人に鏡を持たせ、目や耳、鼻などの部位が頭部全体のどの位置に、どの程度の幅や大きさで置かれているかを確認させていました。この観察により、顔の構造における新たな気づきがたくさんあり、生徒から驚きの声が上がっていました。２時間目（３校時）は、前時で確認した「観察の視点」を踏まえて、個々の生徒が鏡を見ながら自画像のデッサンに真剣に慎重に取り組んでいました。

◇　実習の成果

自ら研鑽を重ね、身に付けてきたデッサンに関する確かな知識や技能に裏打ちされた授業でした。授業の構想力、全体への説明力、個々の生徒の意欲等に応じた丁寧な助言などに、美術大学の学生としての自信と誇りが感じられました。また、授業を行ったクラスが体育コースであったこともあり、中には集中が途切れてしまう生徒もいましたが、適切な個別指導により、制作活動に復帰させる場面もありました。

当該校の先生方からは、美術の指導力はもとより、生徒指導的な接し方も適切であり、即戦力として十分期待できる人材であるとのお褒めの言葉をいただきました。この教育実習が、実習生にとっても貴重な機会となったものと思います。

後半の教育実習は、８月下旬から11月上旬にかけて行われます。有意義で充実した実習となることを願っています。また、10月２日（月）の２限（10:30～12:00）には、教育実習室を会場に１回目の教育実習報告会の開催を予定しています。２年生の皆さんは、来年度を見据えてできる限り参観してください。

教職入門（１年）を終えて

○　はじめに

教職入門では「教職の魅力・やりがいとは？」「美術教育の意義とは？」という二つの“問い”を立て、前者は日新小学校での実習を通して、後者は附属高等学院での実習をもとに、一人一人が自分なりの“こたえ”を求めて学びを深めていきました。

授業の中で大事にしてきたことは、実習先での体験活動以上に、事前事後の協議や考察でした。自分自身の経験をもとに、問いに対する仮説を立て、グループで話し合い、実習を通して検証し、振り返って自分のものにするサイクルは、教職に対する見方や考え方の変化を導くこととなりました。話し合いを重ねる中で、机を並べるお互いのコミュニケーションの深まりにもつながったのではないでしょうか。

○　教職の魅力・やりがいとは？

日新小学校を訪問し、グループごとに５、６年生の各学級で授業参観と授業支援を行いました。「先生」と呼ばれる初めての体験にくすぐったいものを感じながらも、子どもたちとのふれあいを楽しみ、教職の魅力について考える機会となりました。

また､星野和貴校長先生から貴重なお話をいただき、さらに考えを深めることができました。

○　美術教育の意義とは？

本学を含め美術系大学や専門学校等への進学実績のある附属高等学院で、松田清悦副校長先生のご講話を皮切りに、木材工芸、金属工芸、インテリアデザイン、ビジュアルデザインの実習の参観と指導に当たられている先生方との懇談を行いました。

施設設備に恵まれ、少人数制による専門的な美術教育を目の当たりにして、美術教育の意義や大切さについて、自分なりのこたえを見いだすことができました。

「論作文」（最終課題）から

何の絵を描けばいいのかわからず、手が止まっていた児童に、私が発想の手助けをしようと、おそるおそるヒントになりそうな単語を与えると、彼らの手が少しずつ動き始め、授業が終わるときには立派な一枚の絵ができあがっていたのだ。

これを見たとき私は教員の魅力とはこのような喜びの積み重ねだろうと思った。

後期は「学校体験実習１」で秋田西中学校を訪問し、学校における組織的な指導体制や子どもの主体性を高める指導について考えます。

教員採用試験情報

□　大学３年での選考を実施する自治体も

東京都や千葉県（千葉市)、神奈川県相模原市、 福井県などでは、大学３年生を対象にした選考を実施しています。３年生で「教職教養」や「専門科目」を実施し、合格した場合、４年生では「面接」や「模擬授業」「実技」などを実施する自治体が多いようです。他にも実施（予定）している自治体があるのですが、ほとんどは小学校教員を対象とするものです。

また、文部科学省は、教員不足の解消に向け、採用試験の実施時期を前倒しすることを求めています。現在は、６月後半から７月に一次試験、８月から９月にかけて二次試験というのが一般的なスケジュールですが、来年度（2024年度）については、６月16日（日）を一次試験の標準日とする方針が示されました。

採用試験の実施時期は、東北地区などブロックごとに統一されていることが多く、自治体間の調整や協議が必要なので、来年度の実施にどの程度反映されるかは分かりませんが、新たな情報が分かり次第お伝えしていきます。まずは、自分自身で受験希望の自治体の情報を収集しましょう。

□　倍率は低下傾向

近年、教員採用試験の倍率は低下傾向にあり、教員になるチャンスは年々広がってきています。教職支援室では、教職課程の皆さんがせっかく苦労して取得した教員免許を生かせるよう、一人でも多く教員採用試験にチャレンジしてくれることを願っています。

現在、「教員採用試験対策セミナー」には、修士１年１名、４年生２名、２年生２名の計５名の皆さんが参加しています。

卒業に必要な単位に加え、教職課程を履修している皆さんにとって、さらに採用試験に向けた勉強を続けることは、決して簡単なことではありませんが、美術教育や教職課程の学びの一つ一つが採用試験に向けた勉強にも結びついています。

目標を見据えて地道に取り組むことで、光が見えてきます。採用試験に関心のある方は、ぜひ一度教職支援室を訪ねてください。

教員採用試験対策セミナーは“月曜５限”、「教職および博物館学芸課程センター」（教職支援室隣）で実施しています！
（後期は**10月16日（月）**に開講します）